

逆転語への誘いコーナー

Chapter 1:逆転語とは如何なもの？

逆転語とは如何なもの？

更新:06/1/14

逆転語・・・辞書を調べてみると、あらまあ驚いた！そんな言葉、ありませんて・・・。

じゃあ、**逆転**の意味なら載っているだろうと、手元にあった国語辞典を1マイ、2マイ・・・逆転とは、①反転すること②形勢が反対になること③宙返り・・・だそう。

では、①の意味で少お～し考えてみてください。反転すること。逆転すること。”語”が逆転すること。文字が逆さまになること？鏡に写った文字？・・・め、明治時代！？こぼた？！

・・・いや違う。

そう、”～語”は往々にして書けるものです。往々にして話せるものです。国語の専門の話は割愛しますが、”話せる”からには、話すための**仕組み**があるはずですよ？

たとえば、皆さんが「こんにちはあ、メアリーおばさん？」と言う時には、きつとにっこり笑顔の素敵な美少年、美少女を装うわけですよ？ お駄賃ねだっちゃいけないよ(笑)

では、質問。皆さんがメアリーさんに出くわしたとき、こんなしゃべり方しますか？

「こ。ん。に。ち。は・・・つくしよん！！うさびい～」

1文字ずつ喋ったりはしませんよね？では、なぜ皆さんが1文字ずつ喋らないかということ、日本語に**単語**という決まりがあるからです。単語ごとに一呼吸おいて喋るように、赤ん坊のころから皆さんが喋り方を学んできたからです。つまり、そういう喋り方に慣れているのです。

では、さらに質問。メアリーおばさんにアナタ、こう言います。

「今日の天気は、曇りのち晴れらしいね、おばさん！！！」

さっきね、単語ごとに喋るって言いましたけど、単語ごとに喋っていると、疲れますよね？

アナタのせりふを単語で一呼吸起きます。

「今日。の。天気。は。曇り。のち。雨。らしい。ね・・・」

1文字ずつ喋るよりは楽になりましたが、それでも喋りにくいし、言いたい事を言うのに何分もかかるし、不便ですよ？

そ・こ・で！！皆さんは喋りたいテンポで喋ります。時に丁寧に喋ったり、かと思いきや「東京特許許可局！」なんて、狂ったように早口で喋ったり、勝手なものです・・・。でも、勝手にいいのです。それは、皆さんが**文**に慣れているから。

文とは簡単に言えば、「～、～。」で終わるひとまとまりです。皆さんは、日本語を読むときにも、書くときにも、喋るときにも、「。、」を知らず知らずのうちに意識しているのです。皆さんは、会話するときには呼吸をしなければいけません。相手の顔をうかがったりもします。相手との会話のやり取りもしなければいけません。

皆さんは呼吸とともに、意味の区切りなどを意識します。意識しなければ喋れないわけではありません。ですが、日本語ほど英語をたしなめますか？不慣れなうちは英会話するとき文の意味を考えたりするわけです。

「ええと、あいをんとてう…ぷれいてにいす！」

みたいに。

では、なぜ日本語を無意識に喋れるのでしょうか？それは、皆さんが**慣れているから**です。皆さんはすでに無意識で会話ができるのです。それだけ、長い間日本語を使っていたのです。子供が大人ほど日本語をたしなめないのは、知らない言葉が多く、日本語のフレーズを大人ほど理解しているわけでもないからです。意味を伝える能力が未発達だからです。文法を知っているだけではうまく喋れないのは、英会話などで経験済みですよ？

さて、慣れている日本語で皆さんがまず最初に学んだことは何でした？そう…**50音**の書き取りすよね？皆さんはまず最初に、ひらがなを学んだのです。ではなぜでしょうか？それは、日本語の決まり、**音節**と関係があります。

50個の平仮名はすべて、'一文字'で表わされますよね？そう、これが味噌なんです。

昔あし昔、日本語を表すための文字が存在しました。それが**イロハ48文字**というもの。昔の人は「いろはにほへとちりぬるを…」で有名なこの文字で、日本語を表していました。今も基本単位である一文字は、'ぱ'、'だ'などのように濁点などを加えるものを除けば50文字しかありませんよね？

まず一文字から…。一番簡単などころからはじめるのが学問の道というものです。然るべき幼児教育といえましょう。でも、それだけでは語りつくせない大事な要素が残っています。

そう、'行'という考え方。'あ行'、'か行'…そう、それです。行は5文字をひとまとまりに表で表したものです。日本語に…いや、ほかの言語にも共通して**音節**というものがあります。

音節とは、発音する際に区切り目をおかない、つまり、区切りがつけられない最小単位のことを言います。たとえば…

「あ い しゃ」

などです。人は無限の喋り方をできるでしょう。人間が口で出来ることは、音を出すことです。次に、音を出して何が出来るかというと、抑揚をつけること、口の形で空気をコントロールすることです。だから、口の形、舌の位置、声の音程、タイミングなどで無限の'言葉'を喋れるわけです。だって、世界にはたくさんの言語がすでにありますからねえ。

ですが、複雑な言葉はいやですよ。まして、喋る際にいろいろにモゴモゴと口を動かさないといけないのはつらいですよ？それに、各人好き勝手に言葉を決めたら会話が成立しません。でも**平仮名は50文字**などと決めておけば、皆さん共通の言葉として機能するようになりますし、50個くらいだったら…なんて考えることが出来ますよね？

さて、話がずれました。日本語には大まかに**母音と子音**というものがあります。母音とは、日本語で言う「アイウエオ」のことをさします。簡単に言えば、唇の形で決まる音の差を差します。一方、子音というのは母音以外と言っておきましょうか。日本語の中でもいろいろな種類がありますから、とりあえず母音とは違うものと説明しておきます。

さて、50音の表のすばらしいところは、音節がひと目でわかるようになっていることです。行とはまさにそれを「**子音+母音**」の形を表しています。ここら辺の話は次回に詳しく説明するとして、今回は音節が重要だという結論なんですよ。ちなみに、中国語の例を挙げると「母音+母音」なんていうものが出てきますが、日本語にはそういった母音の連続で生まれる複合母音は存在しま

せん。

メール等の受付

当サイトの管理人は、**MORIO**です。

質問やご要望、ご感想、苦情などは、メールで受け付けております。以下のアドレス宛に送ってくださいませ。

master@morik.net

form 2006/1/9